

注意点1

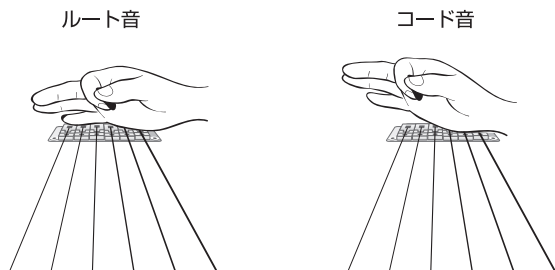


右手

右手とブリッジの距離感をしっかり把握せよ!

このメイン・フレーズをカッコ良く聴かせるためには、ブリッジ・ミュートを掛けたルート音とミュートを掛けていないコードをしっかりと弾き分けるが必要になる。“ミュート音”と“ノン・ミュート音”の差を明確にするほど、リフの切れ味が増すので意識しながら演奏しよう。また、ブリッジ・ミュート時とノン・ミュート時の右手とブリッジの距離感を把握しておくことも大切だ(図1)。ブリッジ・ミュートを掛けると弦の振動を抑えるので、ビギナーはコードに比べて開放弦(ミュート音)の音量が小さくなる傾向がある。そのため、少し強めにピッキングすると良いだろう。ただし力み過ぎると、ピッキングのクレが悪くなる【註】ので注意すること。

図1 右手とブリッジの距離



ブリッジ・ミュートを掛けて弾く。
少し強めにピッキングしよう。

ミュートを掛けずに弾く。

注意点2

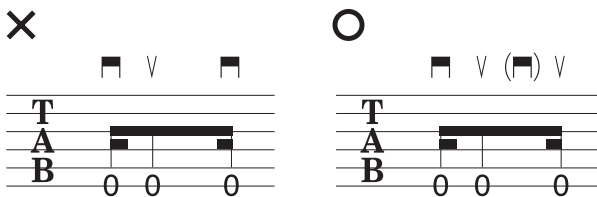


右手

ダウンの空振りを入れてアップを2回続けよう!

メイン・フレーズ1小節目2拍目は16分と8分音符が混じっているの、ピッキングがやや難しい。ここでのピッキングの流れは“ダウン→アップ→アップ”となるが、このようにアップが2回続くパターンは弾き慣れていないと、誤って“ダウン→アップ→ダウン”となりやすいので注意しよう(図2)。基本的にはダウンの空振りを入れるのだが、空振りを入れようと意識するよりも、2音目でアップして、その流れのままピックが自然にダウンする動作を行なうと、ウマク演奏できるだろう。ブリッジ・ミュートを掛けた単音でのピッキングのため、コードカッティングよりも右手の振りを小さくして、細かくコントロールして欲しい。

図2 8分+16分フレーズのピッキング



空振りを入れないと、ピッキング順番が乱れてしまうので注意しよう。

~コラム3~

教官の戯れ言

このメイン・フレーズに登場するオン・コード(分数コード)は、コードの3rd音をベース音に持ってきた転回系のコードである(図3)。メタル系ではパワー・コードをよく使用するが、このようなオン・コードを覚えることで、フレーズのバリエーションを増やすことができる。ただし押弦には注意が必要で、小指と薬指をしっかり立てないと、ほかの弦に指が触れてコードをハッキリ鳴らすことができない。コードによっては、ややストレッチ・ポジションになることもあるので、指をきちんと開いて各音を的確に押弦しよう。オン・コードを覚えて、ワン・ランク上のギタリストを目指せ!

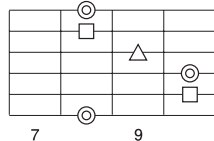
パワー・コードだけでは、まだまだひよっ子! ワン・ランク上の“オン・コード”を覚えよう

図3 オン・コードの仕組み

(例:メイン・フレーズ1小節目のC(onE))

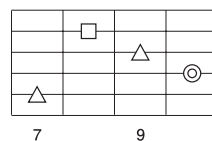
◎ルート音=C音 △3rd音=E音 □5th音=G音

通常のCコード



コードを転回して、3rd音であるE音を最低音にする。

C(onE)



【ピッキングのクレが悪くなる】ピッキングのクレが悪いと、リズムに遅れたように聞こえてしまう。したがって、手首のスナップを活用して、弦を素早く強くように心掛けると良い。ただし、リズムがハシってしまうのはNGだ!